

# Poland-Japan EXPO25 Workshopと関連事業報告 (Theme: Sustainable Energy and Environment: Bridging Heritage and Progress)

西日本工業大学 川崎 敏之



2025年4月15～24日の期間、Poland-Japan EXPO25 Workshopを中心に、関連事業としてEXPO2025への訪問を含むテクニカルツアーが実施された。大分大学の金澤誠司教授とポーランド科学アカデミー（PAN）のMarek Kocik准教授による1999年から続く長い国際共同研究が縁になり、EXPO2025を契機としたポーランドのNAWA（Polish National Agency of Academic Exchange）プログラムとして採択されたプロジェクトのもと実施された。今回のプロジェクトは、日本の学生をポーランドの博士課程に進学してもらうこと、並びに今後の共同研究の発掘が主な目的であった。主催はNAWAプログラムで、PANと大分大学が実施の主体となり、静電気学会にも協賛いただいた。今回は家族を含めたポーランドからの来日者13名に、日本からの静電気学会関係者らとその学生を加えた34名が各イベントに参加した。以下、時系列に実施内容について報告する。

初日となる15日、大分大学理工学部長への表敬訪問（図1）によりスタートした。本事業の目的や概要の説明がポーランド側からあり、その後大学からポーランドとの交流実績などの説明ののち、意見および記念品の交換が行われた。同日、大分大学の放電プラズマ研究室と日本製鉄（株）九州製鉄所大分地区の見学会が実施された。研究室で実演された各種実験やレーザ等を用いた計測に対して活発な意見交換がなされた。初めて見る製鉄の現場では、その迫力と熱気を肌で感じ参加者の多くが感銘を受けた。

16日、17日の2日間は、本事業の中心となるPoland-Japan EXPO25 WorkshopがJ:COM ホルトホール大分（大分市）にて開催された。Workshopは3部構成で、第1部は金澤教授、Marek Kocik准教授によるオープニングセレモニーより始まり、日本とポーランドより基調講演（2件）

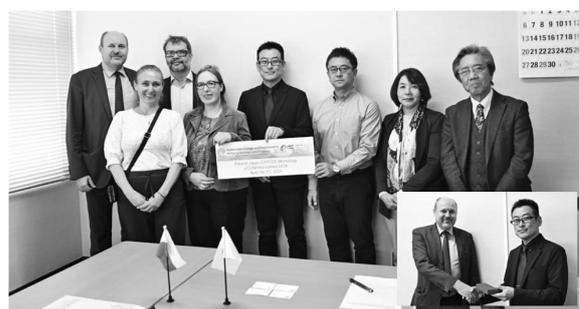


図1 大分大学理工学部長への表敬訪問



図2 左より、M. Mieloszyk 教授（PAN）と衣本教授（大分大学）による基調講演、宮町教授（大分大学）と E. Domke 副所長（PAN）による招待講演



図3 グループディスカッションの様子

と招待講演（2件）を中心に（図2）、他7件の一般講演があった。中にはドローンで撮影されたグダニスク（ポーランド）の街並みが紹介され、その美しさと映像美に参加者が見惚れる場面もあった。第2部は、2050年の理想とする社会をテーマに、グループディスカッションが行われた（図3）。各グループは日本人、ポーランド人、日本人学生で構成され、検討結果を主に日本人学生が発表した。第3部はポスターセッションが行われた。ポーランドから17件、



図4 ポスターセッションの様子

日本から6件のポスターがあり、日本人学生のみショートプレゼンテーションも実施した(図4)。ほとんどの学生がこのような国際交流は初めてで、学生らからはもっと英語を頑張らないと、との意見が多く寄せられた。Workshop期間中にはGala dinnerも開催され、これをきっかけに参加者間の関係がより深まっていくことが感じられた(図5)。なお、私事で誠に恐縮ではあるが、Gala dinnerの余興として、金澤教授のご依頼により人生で初めて手品を披露する機会をいただいた。この場をお借りして、そのことを記録として残しておきたい。本イベントは、研究成果発表だけでなく両国地域の紹介やグループディスカッションを通じて、学生の見分が広がったことや更なる日本とポーランドの国際交流発展が生まれるきっかけとなった。

Workshopが終了した17日午後からテクニカルツアーが開始された。八丁原地熱発電所では、地熱発電の仕組みに関する説明、タービン実物の見学を通じて、自然エネルギーの今後の重要性を学んだ。熊本までの途中では阿蘇カルデラの大きさを感じつつ火口の見学をし、そして日本の歴史について熊本城見学を通じて学んだ(図6)。こうした時間を共有することで、教員、学生問わず両国参加者間の友好関係がより深まっていくことを感じた。

少し休憩をはさんだ23日に再集合し、EXPO2025への参加とポーランド館の次長マルタ・ジェリンスカ氏への表敬訪問を行った(図7)。金澤教授による代表挨拶、Kocik准教授による本グループのこれまでの関係性、訪問の意義、そして今後について説明を行った。その後、日本語を勉強中というポーランド人学生の案内で館内の説明を受ける機会を得た。本学会とも関係が深い方々の出身国であるカナダ、スペイン、フランス、ブラジル館へも訪問した。そして翌日24日、ダイキン工業TICを訪問し、本事業を締めくくった。

15~24日の間、両国参加者の絆はより強固なものとなった。PANでは今後も、日本人学生の博士課程への進学や



図5 Gala dinnerの様子



図6 記念撮影(八丁原地熱発電所(上)、熊本城(下))



図7 EXPO2025参加とポーランド館への表敬訪問

若手研究者の短期留学の受け入れを積極的に進めていく方針であり、引き続きご協力をお願いしたとのことであった。NAWAプログラムの支援による本企画は、今後のさらなる交流発展のきっかけとなる有意義な事業であった。